

名古屋石田学園報

名古屋明德短期大学
星城高等専門学校
星の城幼稚園
名古屋英学塾
(名英予備校)
名英図書出版協会

創刊号 (平成2) 1990 12.22

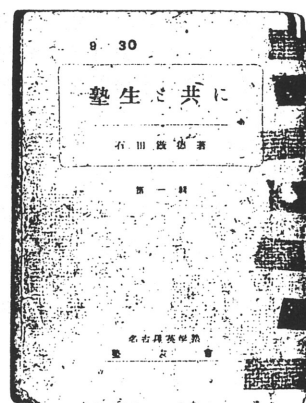
学園創立者 石田錠徳先生の教え 「塾生と共に」第一輯より

「学問の勧め 学び方」

「謂(い)ふ勿(なか)れ、今日学ばずして来日ありと、謂ふ勿れ今年学ばずして来年ありと、日月逝きぬ、歳我と延びず、嗚呼(ああ)老いたり、是れ誰の愆(あやまち)ぞや」と古人は嘆いた。これは年月の過ぎやすく、我が学の成り難いのを悔いるといふ意味である。又「盛年重ねて来たらず、一日再び晨(あした)なり難し」とも先哲は教えた。学問をするには時機がある、青少年の時は最も学おに好適な機である。鉄は熱したる時に鍛えねばならぬ。餡は柔らかいうちに伸ばさねばならない。時機を逸しては徒らに労多くして効は少ないものである。又、学問をするには順序次第がある。所謂(いわゆる)下学して上達しなければならぬ。「高きに登るに卑きよりする」とか「千里の道も足下から始まる」とか古人が教えたのも、それである。学問は「博学審問慎思明弁篤行」順序よく

進んで最後には実行に移すことをよく呑み込んで常に実学問をするように心懸けねばならない。

そして、学問は余暇を利用することに力(つと)め業務を怠らぬようにしなければならぬ。孔子が「行つて余力あれば以て文を学べ」といはれたことをよく玩味して学ぶことに留意すべきである。



「塾生と共に」第一輯

「行つて余力あれば以て文を学べ」といはれたことをよく玩味して学ぶことに留意すべきである。

名古屋石田学園創立50周年式典を終えて

理事長・学園長 石田正城

学園報の創刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。平成2年もいよいよ押し詰まりました。皆様には如何な1年でしたでしょうか。私は「創立50周年」に終始した年でありました。50年誌の原稿書き、年表、写真の配置、校正を通じて、また旧職員、物故者の縁者の調査と式典へのご案内等々の作業をしながら、随分多くの人々の暖かい心、そして汗と涙の結晶で半世紀を迎えられた事に感謝を申しあげると共に、改めて錠徳先生の偉大さと人徳に頭の下がる思いをいたしました。10月13日の式典は、皆さんの協力で大成功裏に終わられました。心から御礼を申し上げます。旧職員も沢山、出席され、スライドの画面に思い出をはせられて涙を出して今日の発展をわが事のように喜んでいただき、私も涙腺が緩む思いをいたしました、当日はゆっくりとお話をする時間がなく誠に残念でありました。

この50周年記念式典、そして各学校の行事を通じて下記の目的を果たすことができたことと喜んでます。

- ①全職員、全生徒の参加を得て建学の精神と志気の高揚を図る。
 - ②広く内外に石田学園の理念と歴史を示す。
 - ③旧職員、現職員のご尽力に感謝すると共に、これからの新しい学園像確立の起点にする。
- 明德短大の設立をみて、学園傘下の職員は300名程になりました。そこで全学園職員には一層の建学精神の研鑽を図っていただくと同時に、新しい時代、今後の生徒減という厳しい局面の中で、錠徳先生になり代わって、新たなる石田学園像を創りだすべく努力をお願い申し上げます。終わりにこの学園報が各部門相互の協力関係の増進と交流に役立っていただくことを期待しております。

学園創立50周年記念式典盛大に挙

御園座で観劇行事とあわせて

記念事業も着々と進行

10月13日(土)、学園創立50周年記念式典が、折から歌舞伎の顔見世興業中の御園座を借り切って、午前10時から挙行され、続いて記念行事としての観劇が行われた。

本学園は、昭和16年 石田巖徳先生により「明德学館」として創立され、以来、英学塾、予備校、図書出版協会、高等学校、幼稚園、短期大学と教育事業を拡大しつつ発展を続け、今や6万8千余名の卒業生を送り出し、4千名に及ぶ在校生をかかえる一大総合学園となった。

記念式典は、国歌斉唱に始まり、石田理事長の挨拶のあと、海部内閣総理大臣(代理海部尚樹氏)、愛知県知事(代理奥野副知事)愛知県私学振興議員連盟会長寺西県議会議員愛知県私学総連合会会長堀敬文氏の祝辞が続いてあり、式典をいったん閉じたあと、学園50年の歩みがスライドで紹介された。

当日の参列者は、先に挙げた方々のほか、名古屋、東海市、豊明市の市長、市議会議長、県私学振興室長などの来賓の方々、また招待した公私立の各種の学校長、学校関係者の方々、それに本学園の旧現役員、旧現職員、同窓会員、父母の会々員、在校生代表などを加えて実に1500余名に及んだ。

この式典及び観劇行事については、各方面から大



創立50周年記念式典 御園座にて

変スッキリした内容で、しかもユニークで印象的であったという好評を頂いている。

創立50周年に当たり次の記念事業が行われた。

1. 記念式典、観劇、50年誌刊行
2. 星の城幼稚園 特製巨大遊具(滑り台)の設置
3. 星城高等学校 トレーニング室・クラブ室の建設 国際シンポジウム(米・豪・韓・日・ネパール)の開催
4. 名古屋明德短大 学園創立者銅像建設 造園修景(来年度継続実施) 学生対象講演会(講師は井出祥子氏)
5. 名英予備校 教室机・椅子の更新・塾生対象講演会(講師は花山勝友氏)
6. 名英図書出版協会 英語教師対象の講演会(講師は名古屋明德短大学科長佐藤番氏)

学園の将来

生徒急減の厳しい状況下で

去る11月中旬、平成3年度の県下、公立・私立高校の募集人員が相継いで発表されたが、前年度に比べ両方併せ7256人の減となっている。県内中学校3年生の数は、昭和63年と平成元年をピークにあとは減少の一途を辿りつつある。私学の経営にとっては極めて厳しい情勢である。

幼稚園・高校・短大を擁し、さらに予備校、教材出版事業をかかえる本学園も、生徒の減少という荒波はかぶらざるを得ないが、この状況を突破し、さらに発展するには、かなり思い切った将来構想を練り、それを実現しなければならない。

昨年度以来、理事会、評議員会、教学運営会議等で度々取り上げられているが、今年度の教学運営会議でかなり具体的な形で構想が報告されているので、その記録から概要を紹介する。

1. 中学校の新設

現在の星城高校に隣接して、中学校を設置し、中高一貫教育のメリットを生かし、一層の教育効果を

挙げようというものである。平成5年度の発足をめざして、教育方針、教育内容、募集定員などの検討が進められている併せて土地の確保についても努力が続けられている。

2. 短大の増学科

短大は現在の英文科(定員180名)に加えて、新たに国際文化科(定員180名を予定)を設置し、短大の発展拡充を期している。平成5年度発足を期して、文部省の指導を受けつつ、カリキュラムの研究、建物の構造の検討をすすめている。

カリキュラムについては、国際文化に深い理解をもち国際交流の場で活動できる人材を育成するために、我が国及び世界の歴史や文化について教養を深めるとともに外国語に熟達し、かつ新しいビジネス社会にも有能な職業人として活躍できる能力を養うことをめざしている。

そして将来は、専攻科、別科の設置にまで視野を広げさらに生涯教育、社会教育にも寄与しようという構想である。

名古屋明德短期大学だより

自己紹介に代えて

開学は平成の元年で、本学園創立50周年記念行事の一環という、本学園の歴史的な時期に誕生したのである。それから一年有余、関係者の皆さんのご支援・ご助言のたまもので、いささかなりとも、本学の存在が知られるようになったことは、誠に嬉しく、感謝申しあげるところである。

本学の経営の方針は、学則にうたうところであることは、改めて申すまでもないが、その具体的な方法の基本的な姿勢を、大学のファミリー化におき、大学の小規模である点を長所と考え、濃密で細密な指導と関係作りを図る中で、実現を期している。

大学の評価は、その教育の成果によることは、言うまでもないが、その成果の世評の示すものとして、入学試験の応募者数の推移及び卒業生の就職状況を例に挙げるならば、次のとおりである。

入学試験志願状況

年度	定員	志 願 者 数					
		計		県 内		県 外	
		数	倍率	数	比率%	数	比率%
平成元年 (開学年)	180	521	2.89	418	80.2	103	19.8
平成2年	180	952	5.29	718	75.4	234	24.6

なお、平成3年度の入学試験の日程は、以下のとおりである。

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
指定制 推薦入試	平成2年11月5日(月)～ 11月15日(木)必着	11月20日(火)	11月25日(日)	11月26日(月)～ 12月5日(木)必着
公募制 推薦入試	平成2年11月5日(月)～ 11月15日(木)必着	11月20日(火)	11月25日(日)	11月26日(月)～ 12月5日(木)必着
一 次	平成3年1月16日(木)～ 1月29日(木)必着	2月4日(月)	2月8日(金)	2月9日(土)～ 2月19日(木)必着
二 次	平成3年2月21日(木)～ 3月1日(金)必着	3月6日(火)	3月9日(土)	3月10日(月)～ 3月19日(木)必着

選考の方法は、本学が英語科を設置していることに鑑み、英語の学力を重視し、指定制及び公募制の推薦入試においては、その出願資格を英語の評定についてのみ条件とし、公募制推薦入試においては、英語基礎学力テストを、一般入試においては、英語と国語の試験を実施するが、英語の比重を大きくしている。

推薦入試は、11月20日に行い25日に合格発表をしたが指定制は、志願者、合格者とも51名、公募制の志願者は昨年に比して大幅にふえ385名合格者は77名であった。

もう一つの就職状況についてであるが、何分、いわゆる新設大学であり、名古屋石田学園としての歴史と実績はあっても、本学は無である。すでに開学時から布石を打ってはきたものの不安は大きかった。前年度末から就職講話や就職希望調査を実施し、今年度初めには指導活動を開始した。就職希望学生約

230名、希望は多様でかつ多種であった。大学案内パンフレット約1100部を、県内を中心に会社宛発送し、宣伝活動を始動。学内においては、学生の希望聴取、学外においては、職員の会社訪問をし、又、学生の会社訪問を勧めた。その担当職員は、ほとんど前川学生課長一人であった。やがて、その努力の成果が稔り、会社の本学来訪があり、会社の求人票が届けられるようになったのである。就職活動解禁とともに求人票が届けられた会社が350社、求人数は、実に700名を超え、就職希望者数を上廻ったのである。やがて、内定者は就職希望者の7割以上となり、既設の大学情報と比較しても、ほとんど遜色のない結果を生んでいた。残りの学生は、とかくそれぞれ特別な事情を抱えているので、その対応を工夫し、一段と綿密な指導をこころみている。現在までの就職内定者の、内定先の主要なものを挙げておく。(略称・順不同)

〔製造〕

新日本製鐵・大同特殊鋼・愛知製鋼・トヨタ自動車・愛知機械工業・日本電装・アイシン精機・トヨタ車体・豊田合成・三菱重工・川崎重工・松下電器産業・住友電気工業・リコーエレメックス・三菱油化・三菱瓦斯化学・日本油脂・出光興産・新日鐵化学・日本特殊陶業・INAX・旭ガラス・リンナイ・ミツカン・中部飼料・HOYA・日本国土開発・名工建設等

〔販売〕

豊田通商・全農・長瀬産業・日鐵商事・プラザー販売・松坂屋・丸栄・名鉄百貨店・ユニー・ジャスコ・ヤオハン・栄電社・愛知トヨタ・日産プリンス販売・ヤナセ等

〔金融〕

太陽神戸三井銀行・東海銀行・中央信託銀行・名古屋銀行・愛知銀行・中京銀行・第一生命・日産火災海上・日本生命・朝日生命・新日本証券・国際証券・三洋証券・東京証券・丸万証券・オリエントコーポレーション・セントラルリース・ジャックス・ミリオンカード・日本信販等

〔サービス〕

近畿日本ツーリスト・阪急交通社・JTB・サービス中部・交通公社トラベルランド・全日本空輸(ステューデス・グランドホステス)・岐阜バス・ヒルトンホテル・名古屋観光ホテル・東急ホテル・藤田観光・三交不動産・新日本情報通信システム・名古屋商工会議所・日本中央競馬会・伊藤忠倉庫・ヘラルドコーポレーション・中部日本放送等

その他の大学行事としては、特に学園祭(秋桜祭)を紹介すべきであろう。女子学生だけの、しかも、時間も資金も少ない状況の中で、2年目にして、第一回が11月22日から24日にかけて、本学キャンパスを中心に開催された。初めての経験にふさわしく、情熱と意欲を目玉の3日間であった。まさに“コスモス”のさわやかで可憐そのものであったといえよう。(文責 竹内実)

星城高等学校

韓国への修学旅行

群山東高校との交歓会



昭和63年から始まった韓国修学旅行は、本年は仰星コースが8月6日～10日に行い、女子は10月22日～26日（A班）23日～27日（B班）、男子は10月27日～31日（C班）、28日～11月1日（D班）と実施されました。

10月27日（C班）、28日（D班）、の両日2年男子539名は、空路韓国へと旅立ちました。国立博物館・景福宮・オリンピックスタジアム等を見学し、今回の旅行の最大の目的である、本校姉妹校群山東高校との交歓会に参加しました。

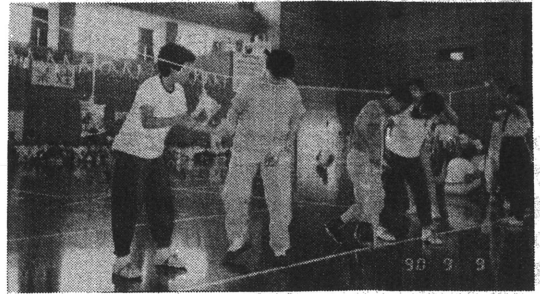
群山東高校の生徒達の温かい出迎えを受け、身ぶり、手ぶりを交え、片言の英語で話し合う生徒達・スポーツを通し友情を深める者・校章やカードを交換する者と、生徒達にとっては価値ある1日でした。韓国の生徒と心を通い合わせ、真に韓国を理解できたことは、本校の教育目標である「世界観の確立」のうえでも意義あることでした。

旅行中、天候にも恵まれ、大きな事故等もなく過ごせたことを、各関係者の皆さんに感謝いたします。この韓国への修学旅行は、いつまでも生徒達の心の中に楽しい思い出として残ることでしょう。

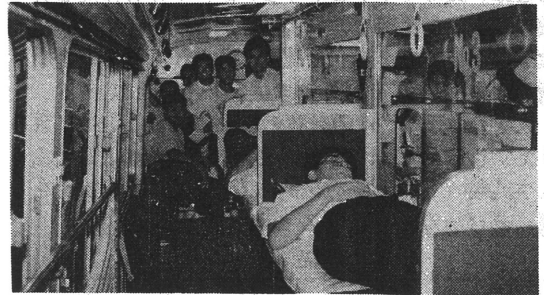
活発なボランティア活動

創立50周年を迎え、本校の社会福祉協力活動も盛んに行われています。

- 夏休みの奉仕活動（8施設へ218名参加）
- 豊明市内180人の独居老人への暑中見舞い・年賀状の発送
- 福祉講話 「視覚障害を克服して」
豊明市盲人福祉協会長 加藤晃氏 （10月）
- 赤い羽募金 85,415円
- 献血 459人
日本赤十字社及び県知事より10年表彰を受く
- 通学路・前後駅清掃（適時）
- 施設への雑巾寄付（1500枚）



ボランティア活動



献血

人間的な接触大切

星城高が国際交流シンポ

留学生らが意見発表

星城高等学校が、12月11日（火）午後1時、本校多目的ホールにおいて、国際交流シンポジウム「人間的な接触大切」を開催した。このシンポジウムは、本校が国際交流の推進を図るため、毎年実施している。今年も、本校に在籍する留学生らから、それぞれの国の文化や生活習慣、そして、人間的な接触の重要性について、意見を述べた。シンポジウムには、本校の教職員や関係者も参加した。留学生らは、それぞれの国の文化や生活習慣について、興味を持って話を聞いた。また、人間的な接触の重要性について、意見を述べた。シンポジウムは、国際交流の推進に大きく貢献した。

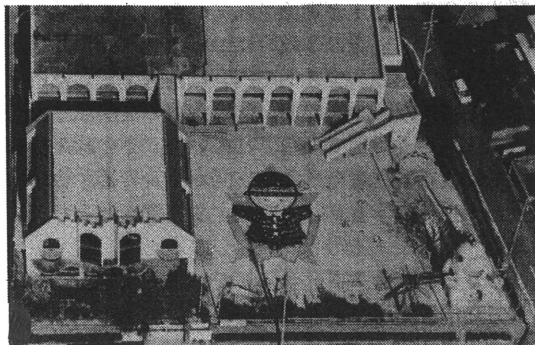
平成2年12月11日（火）中日新聞より

「私学時報」より 中高一貫6年制高校

すでに周知のように、かなりの数の私立高校では、中高一貫6年制教育を実施して、進学等の実績を顕著に挙げているものもある。本学園の将来構想の一つにも中学校設置による中高一貫教育の実施が挙げられているが、最近の「私学時報」に東京都教委の6年生高校の検討の結果が報じられている。それによれば、教員は、教科・科目・特別活動の指導の系統制、継続性の確保のため、中高両校を兼務し、学級担任は持ち上がり制とする。教育内容や方法については、教育課程の編成を強力的にし、理科、文科、外国語、情報などの類型を設ける、又多様な選択科目を設け、生徒の自由な選択を可能にするが、選択科目の単位数は、1年から6年次まで徐々に拡大し逆に必修科目のそれは、減少させるなどの方法を挙げている。

●●●●●●●●●●●●●●●● 星の城幼稚園の姿 ●●●●●●●●●●●●●●●●

ピックアートコンテスト
朝日新聞社賞受賞



ピックアート「伸びゆく星の子」

4月に入園してから、もう7ヶ月経ち、毎日登園してくる園児達の表情はとても明るく活気に満ちています。子供達はいろいろな行事を通して集団生活を知り、幼稚園という環境によって大きく成長しています。

11月17、18日、幼稚園の作品展が行われました。園児達は、家庭から持ち寄ったお菓子の空箱、カップラーメンのカップ、ビールの王冠、サランラップの芯等、数知れない廃品の山と、ダンボールを上手に使って童話の「ガリバーと小人」等、絵本の世界を繰り広げました。

今日までに積み重ねられた子供達の経験が活かされ、幼児ならではの色々なアイデア、発想がそこかしこに見られ、とても楽しい雰囲気があり、作品展に来園されたお母さん達を感動させました。

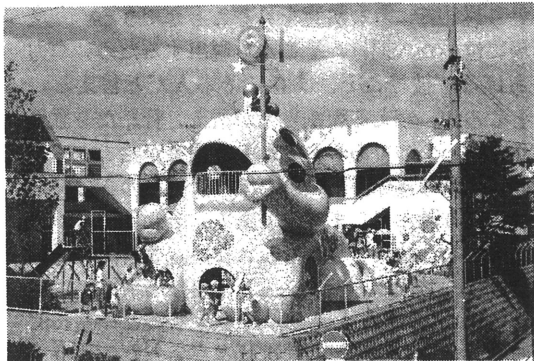
平成元年度、幼稚園の教育の基本となる「幼稚園教育要領」が25年ぶりに改定され今年から実施されました。

その要点は「一人ひとりの発達の特徴を生かし、人的・物的環境による教育を重視し、幼児が、育てられるよりも自身の力で育つこと」とされています。

現在、多くの子供達は、ゆとりのない生活をしています。テレビや室内ゲームなどの与えられた映像でしか知識が得られない環境の中に育っています。広々として開放された場所で虫を追い・花を摘み・土に親しむなどの幼児期に必要な自然の中での遊びを体験することがむづかしくなっています。そうした中で、幼稚園では子供達に少しでも明るくのびのびと生活できる場を与えようと日頃から心掛けております。

幼稚園の前にある農園で5月に自分達で植えたさつま芋を掘って、その大きさに驚いた子供達、土の中から出てきた虫をつまんで遊んだ男の子、苗から育ったお芋が土の中で深く根ざして大きくなった自然の不思議さなど大人達がなにげなく通り過ぎてゆく事象をひとつずつ首をかしげながら収穫に歓声をあげていました。

今年は暖かな秋が続き、みかん狩り・柿取り等、園児全員で秋の一日を自然の中で楽しんでいきます。



怪獣滑り台「ウータン」

このたび、名古屋石田学園は創立50周年、星の城幼稚園は20周年を迎え多数の方々のご協力により記念行事を無事終了することができました。

下記のように「創立20周年記念行事」を実施しました。

9月29日

怪獣「ウータン」滑り台オープン
怪獣の背中を滑り降りる・全長15メートルのダブルローラ滑り台です。

10月7日

「みゅーじかる ぶすぶす」記念公演
星城高校の石田記念館をお借りして行いました

10月18日

ピックアートコンテスト参加「伸びゆく星の子」

先生と園児全員で園庭に「星の子」の人文字を描きました。東海地区審査会の結果、第一位に相当する朝日新聞社賞を受賞しました。全国審査の結果も待たれます。

名英図書出版協会

(事業部)

○はじめに

昭和26年11月、学校法人石田学園の認可を受け、翌27年に、名英図書出版協会が発足しました。これは私立学校法26条の規定により、つぎのような収益事業を行なっています。

図書出版業として、英語教育図書教材（主として中学校用）英語聴取力・学力コンクール等テストの発行、販売の事業です。そして、その収益の一部を学園に寄付することにより、教育の一端を担い、図書教材を出版することにより、英語教育に貢献することを目的として、広く全国を舞台に活動を展開し職員一同がんばっています。

○売上げ高の60%は4月に集中

例年1月末～3月までをPR期間とし、北は北海道から南は山口県、香川県まで約180の代理店と中学校へのPR活動を行います。特にこの時期は冬期であるため、北陸、東北、北海道地方への出張は、降雪などいろいろな障害に対処しなければなりません。時には、その行動を阻まれて苦労を重ねることもしばしばありますが、新学期には、蒔いた種が実ることを期待し、努力をしています。この時期が一年の中でも、一番重要な時であることを、みんなが自覚しなければなりません。

4月には受注分の発送が主な業務となり、職員その他アルバイトを例年10人ほど動員して、すみやかに出荷作業をするため、この期間は毎晩9～10時頃まで、作業を続けることとなります。したがって一年間の勝負はここで決まってしまうと言っても過言ではありません。

○英語聴取力コンクール（7月実施）

文部省は学習指導要項の外国語の章の中で、言語活動を重視し、聞くことの指導について、「自然の口調で話されたり、読まれたりする文や文章の内容を聞きとること」という項目をかかげています。

英語教育の主要な領域として、聞きとる力の育成を目的とし、当協会では、昭和40年より本コンクールの実施を毎年7月に行なってきました。本年度は、東海三県にとどまらず、他府県へも参加を呼びかけ、約8万人の答案を7月下旬から8月上旬にかけて処理をし、結果の報告を終えました。

○学力コンクール（12月実施）

聴取力のためのテストは、他に類をみないが、学力テストについては、いろいろな業者、研究団体等で実施していることもあり、また生徒数の急減期と合わせて、参加人員は減少傾向にあるけれども、本コ

ンクールの特色を生かして、参加を呼びかけ、52,000人の答案処理を現在行なっています。

○東海三県中学校英語弁論大会（11月3日文化の日）

昭和27年11月に第1回大会を開催して以来、平成2年度で39回目を迎えることとなりました。本年度は学園創立50周年にあたるので歴史的な大会となり盛大に石田記念館で開催することができました。

参加22校の中には、名古屋聾学校の生徒や、二つの母国を持つ（日本と韓国）生徒など異色の出場者もあり、午前中2会場で予選を行い、午後予選通過者（22名）で最終審査を行い、入賞者は次の通りでした。

順位	校名	氏名	学年
1	南山中学校女子部	鬼頭麻知子	3
2	名古屋市立八王子中学校	新垣睦美	3
3	金城学院中学校	恒川真美	3
4	岡崎市立矢作中学校	永田克美	3
5	岡崎市立美川中学校	神尾真裕美	3
6	岡崎市立東海中学校	藤田昌子	3
7	三好町立三好中学校	鈴木美絵	3
8	四日市市立桜中学校	伊藤卓也	3
9	岡崎市立南中学校	李 顯	3
10	豊田市立上郷中学校	倉橋小百合	3
10	麗澤瑞浪中学校	吉村武典	3
10	愛教大附属岡崎中学校	井野令佳	3

○創立50周年記念特別講演会（12月8日）

50周年記念事業の一環として、事業部では、明德短期大学学科長佐藤喬教授を招いて、「国際化時代と英語教育」と題して、電気文化会館（イベントホール）に於いて、講演会を開催いたしました。

東海三県各中・高等学校より英語科先生約150名のご来聴をいただき、学園のスライド紹介、理事長の挨拶に続き、佐藤教授の時代のニーズに応えたユニモラスな講演で、大変好評を得ることができました。

○揺れ動く図書教材業界

現在中学校を対象とした直販教材の出版社は20数社もありますが、最近のトピックスとして、学宝社が文溪堂に合併されたことや、福武書店が中学部門の出版物を削減し、新たな体制作りの中で、代理店の動揺などを生み、業界の話題として、取り上げられています。

生徒の急減期と学校の管理体制の中で、各社が競って販売活動し、生き残って行くには、大変なきびしさがあります。当協会としても、今後その方向性と、研究成果を求めて、教科の特性を生かしたものを出版し、その活路を見い出していかなければならないと思います。

短大名実ともに完成

文部省実地調査終わる

名古屋明德短期大学の完成年度にあたり、文部省の実地調査が行われた。5月16日に



は、「年次計画履行状況」（主としてカリキュラムと教員配置）について、文部省大学設置学校法人審議会の調査委員である神戸大学学長新野幸次郎氏、関西学院大学学長柘植一郎氏、が文部省の係官と共に来学、6月19日には、「財政状況及び施設等整備状況」について、同じく調査委員の広島経済大学学長石田成夫氏、武庫川女子大学学長日下晃氏が、同様文部省係官と共に来学し、それぞれ終日詳細に調査が行われた。この調査の完了によって名実ともに短大は完成したのである。

「教育学術新聞」より

短大教育について

11月1日の教育学術新聞によると、文部大臣の諮問機関である大学審議会は、10月31日の総会で、大学教育部会から「短期大学教育専門委員会における審議の概要について」の報告を受けているが、その中で、短大教育改善の主な方向として、①特色ある個性的な教育、②教育目標の明確化と質の高い教育、③他の教育機関との連携と多様な教育、④生涯学習社会に対応した教育、⑤教育水準の維持向上の5点が挙げられている。

また、高等教育計画部会では、高等教育各校が「量から質への転換」を図り、社会人や外国人留学生の受け入れ、個性的なカリキュラムの編成や多彩な授業の展開などの“自助努力”を図ることを促す内容の報告がなされている。

〈各部門間の一層の協力を〉

幼稚園が夏に行う宿泊指導は、高校の仰星館で行っている。図書出版協会の主催する中学校英語弁論大会は高校内の石田記念館で行っている。こうした施設利用上の協力のほか、図書出版協会の英語教師対象講演会に短大の学科長先生を講師として招き、幼稚園の保護者対象の講演会には、学監の先生方のお話を頂いている。また、予備校の夏期講座には高校の先生方が講師として招かれているなど、人の面からの協力もすでにかなり実施されている。今後、学園全体の発展のために、一層の協力が期待される。

学園表彰

従来、学園表彰は、周年行事に付随して行われていたもののほかに部門独自のものもあったが、本年度から規程を整備して全部門を通じて共通の条件で表彰を行うこととなった。本年度は永年勤続により次の方々表彰されることとなった。賞品を添えて賞状が贈られる。

勤続 30年以上	高瀬末子	英学塾
	西川憲治	図書出版協会
	永井俊男	〃
20年以上	小林 達	星城高校
	太田豊次	〃
	山田淑江	図書出版協会
10年以上	田口勝也	星城高校
	加藤元得	〃
	前田孝仁	〃
	竹井 寛	〃
	林 隆正	〃
	河野雅晴	〃
	角谷宗和	明德短大
	石田直城	法人本部

(敬称略)

慶弔規程の統一

従来、学園として行う慶弔行為が部門によってまちまちであるという不合理な点があったので、各部門の規程を参考にして統一的な規程を作成した。平成3年4月から施行する。

学園事務の電算化

学園事務のうち、会計及び給与事務並びに備品管理をコンピューターによって処理できるよう準備をすすめている。すでに本部に電算機の本体を置き、各部門に端末機を配して、来年4月の稼働を期している。各部門が直接扱うのは会計事務（予算の執行）のみであるが、これによって学園事務の能率化と正確性が一層高まることを期している。

編集後記

学園の全職員に配布する学園報を発行することになった。本学園は、法人本部を含めて6つの部門を有する総合的な学園だが、お互に他の部門については知らないことが多い。各部門がそれぞれの機能をよりよく発揮するためには、部門間の協力体制を密にすることが必要であり、そのためにも、他部門の実状をお互に知るべきであるというのが、この度の学園報発行の趣旨である。発行日まであまり日がなかったので、創刊号はとりあえず各部門の現状について執筆して頂いた。今年度はこの号だけであるが、来年度からは年2回の発行を予定している。企画によりアイデアがあればお寄せ頂きたい。

(編集法人本部)